

# Template Prepper for DNA

Code No. 316-08911

マニュアル(第 1 版)202002sa

## I 製品説明

「Template Prepper for DNA」は、2 液タイプの簡易 DNA 抽出試薬です。マウス尾、血液、動物組織、植物組織、細菌等の幅広いサンプルから加温・遠心するだけで DNA を抽出することができます。抽出した DNA 溶液（上清）は、そのまま PCR 等の核酸増幅法の鋳型として利用することができます。

### <特長>

- ・ 試薬を添加し、約 10 分間加温・遠心するだけの簡単操作。
- ・ 抽出液は精製不要でそのまま PCR 等の鋳型に使用可能。
- ・ 室温保存品のためすぐ使用できる。

## II 製品内容

- ・ Template Prepper A : 10 ml × 1 本
- ・ Template Prepper B : 10 ml × 1 本

### <使用回数>

1 サンプルあたり 50 µl ずつ使用した場合、200 回使用できます。

## III 保 存

室温保存

### <備考>

本品は室温保存品ですが、-20℃凍結保存も可能です。凍結保存された場合は、室温で本品を融解し、混合して均一にしてからご利用ください。

## IV プロトコール

試料に「Template Prepper for DNA」の A 液と B 液を添加後、100℃の加温で試料から DNA を溶出させます。遠心分離で細胞片等の不溶物を沈殿させることで、DNA を含む上清をそのまま PCR に用いることができます。

抽出法は、標準プロトコールと多検体処理に適した短縮プロトコールの 2 通りありますので、実験のしやすさでご選択ください。短縮プロトコールでは、試料によっては DNA 収量が減少する場合があります。（実験例はニッポジーン Web ページをご覧ください）

### <用意するもの>

- ・ マイクロピペット
- ・ ピペットチップ
- ・ マイクロチューブ
- ・ ボルテックスミキサー
- ・ 簡易遠心機
- ・ 遠心分離機
- ・ ヒートブロック（95–100℃）
- ・ 氷

## <標準プロトコール>

試料をマイクロチューブに入れる <sup>\*1)</sup>

← 50  $\mu$ l Template Prepper A <sup>\*2)</sup>  
ボルテックスで 5 秒間攪拌  
スピンドウン <sup>\*3)</sup>

室温で 5 分間静置

← 50  $\mu$ l Template Prepper B <sup>\*2)</sup>  
ボルテックスで 5 秒間攪拌  
スピンドウン <sup>\*3)</sup>

95-100°C で 5 分間加温 <sup>\*4)</sup>

氷上で 2 分間静置

遠心 (15,000  $\times$  g, 5 分間) <sup>\*5)</sup>

DNA 溶液 (上清) を回収 <sup>\*6)</sup>

(25  $\mu$ l の PCR 反応系に対し 1.0-2.5  $\mu$ l 使用)

## <短縮プロトコール>

Template Prepper A	50 $\mu$ l <sup>*2)</sup>
Template Prepper B	50 $\mu$ l <sup>*2)</sup>
混合液 (A + B)	100 $\mu$ l / 検体

試料をマイクロチューブに入れる <sup>\*1)</sup>

← 100  $\mu$ l 混合液 (A + B)  
ボルテックスで 5 秒間攪拌  
スピンドウン <sup>\*3)</sup>

95-100°C で 10 分間加温 <sup>\*4)</sup>

氷上で 2 分間静置

遠心 (15,000  $\times$  g, 5 分間) <sup>\*5)</sup>

DNA 溶液 (上清) を回収 <sup>\*6)</sup>

(25  $\mu$ l の PCR 反応系に対し 1.0-2.5  $\mu$ l 使用)

**\*1)** Template Prepper A および B を各 50  $\mu$ l 使用する  
場合の試料量の目安 :

- ・ 培養細胞 5  $\times$  10<sup>4</sup> - 1  $\times$  10<sup>6</sup> cells
- ・ マウス尾 1-2 mm
- ・ 血液 2-10  $\mu$ l
- ・ 植物組織 4-10 mm<sup>2</sup> (2-3 mm 角)
- ・ 種子粉末 10 mg

**\*2)** 試料量に合わせて使用する試薬量を増やす。その  
場合、Template Prepper A と Template Prepper B  
は必ず等量にする。

**\*3)** スピンドウン後、試料が完全に試薬の中に浸って  
いることを確認してから、加温する。

**\*4)** チューブの蓋をしっかりと閉めて突沸や火傷に注  
意する。

**\*5)** 浮いている細胞片等の不溶物を沈殿させる。

**\*6)** 不溶物を取らないように上清を新しいチューブに  
分取し、DNA 溶液とする。-20°C で少なくとも 1  
ヶ月は保存可能。回収した DNA はそのまま PCR  
の鋳型 DNA として使用できる。PCR で阻害が見  
られた場合は、10 倍から 100 倍に希釈して最適な  
条件を検討する。

本品は、試薬(試験研究用)として販売しているものです。  
医薬品の用途には使用しないでください。